

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

## 槍ヶ岳二様

大町岳陽の全校登山、昨年はIHの関係で槍隊から外れたが、今年は2年ぶりに槍に登った。快晴の槍ヶ岳の頂上から久しぶりに眺望を堪能した。苦労した末の眺望は何ものにも代えがたかった。

それに先立つ3週間前のことである。・・・全校登山は、学校挙げての一大行事。引率者は教員と山岳部OB（最近山岳部以外の消防や市役所に勤務されるOBも協力）となっているが、責任は教員が負う。したがって、教員はそれぞれの隊ごとに任意の日の下見をして万全を期す。今年の槍ヶ岳隊は教員は2人、OB2人の4人態勢。槍隊の場合、本番はもちろん下見も3日かかるので、文化祭の代休を使って行ったが、おりしも西日本豪雨をもたらした台風11号が日本中を席卷している期間と一致してしまった。初日（7月3日）は、合戦尾根を登りあげ、大天荘まで、槍を眺めながらの山行だったが、夕刻からは雨が降り出し、夜半からは強い風も吹き始めた。台風の急襲である。

4日6時前、天候の悪化は避けられない中、台風の動きをにらみながら、出発した。同行者は、本校が初任で私と同じ学年を担当している体操が専門のO先生。山については初心者ではあるが、本校にいる間、しかも自分のクラスの生徒がいるときにどうしても槍に登りたいという意向をもっており、2年前に一緒に担任をもったときから、クラスの生徒が3年のときには槍に行こうと約束をしていた。そんなわけで今年は自ら槍隊を買って出た何事にも前向きな好漢である。しかし、さすがにこの天気の中に行くということには不安を隠しきれない様子。僕に全幅の信頼がおかれている。責任重大。

まずは大天井ヒュッテまで慎重に下る。雨は降ったりやんだりを繰り返しながら、次第に本降りになってきた。稜線はかなりの強風が吹いている。7月の初旬というのに、今年の喜作新道は全くと言っていいほど雪がなかった。さすがにこの天気、だれにも会わない。そんな中でもい我々はめったに行けないからと西岳の頂上に登る。頂上に着いた瞬間にもものすごい強風。おそらく瞬間的には25mを



越えていただろう。5分ほどの滞在で濡れていたカッパが乾いてしまうほどの強風にバランスをくずしそうになる。その後は、ヒュッテ西岳、ヒュッテ大槍と稜線をびしょびしょになりながら、滑落をしないように注意して進んだ。槍ヶ岳にも登った。O氏は体操が専門だけあり、やはりバランスがいい。ガスと強風、雨の中の頂上であった。結局、この日は東鎌尾根も槍

の頂上も、そしてなんと槍ヶ岳山荘もすべて我々が二人占めであった。翌日の下山においても沢が増水しており、靴を濡らしながらのずぶ濡れ山行。最悪の状況を想定しての下見となった。

そして、その3週間後、本番の全校登山は7月25日から27日にかけて行われた。連日好天が続き、前日の職員連絡会では、熱中症多発の恐れがある中での「中止すべきでは？」という意見も出される中、生徒には前日からの栄養摂取と十分な睡眠、体調不調

者は速やかに申し出ること、引率者全員が経口補水液ボトル一本、隊として塩、ブドウ糖等の持ち上げなどの対策を施したうえでの実施となった。今年の槍ヶ岳隊は男子14名、女子が10名、と女子の比率が高かったので、全体としてはゆっくりとしたペースで進んだ。それが奏功したのか、初日は全員快調で、大天荘にはいることができた。夕刻には素晴らしいサンセットが見られ、夕食後2度目の山頂に向かった生徒もいた。

素晴らしいご来光を拝んだ後、朝食を済ませて、6:00 槍ヶ岳に向けて出発。雪解けが早かったことも影響しているのか、花も例年に比べて随分早い感じがする。たとえば、例年はチシマギキョウしか目につかなかったが、今年はイワギキョウしか咲いていないなどなど。ここ5年で8回目ともなれば、どこにどんな花があるのかもたいていわかる。そういえば下見の時には西岳の下り初めに珍しくクロユリも咲いていた。これはここ5年間で2度目だ。すでに本番では咲いていなかったが……。ヒュッテ西岳までは順調。快晴で、ガスも上がってこず、天気は崩れそうもない。水俣乗越をすぎ、3連梯子を越えて岩場の登りにかかったときのことだ。女子の一人が過呼吸を起こした。多少脱水症状もあるのか……。本隊はゆっくり進ませることにし、私が付き添って休ませた。なかなか落ち着かなかったが、次第におさまってきたところで持参したOS1を飲ませると、おいしいと一気に1本飲みました。ゆっくり進み、先行していた隊が休んでいるところに追いついた。

その後は、彼女のペースに合わせてながら、じわじわと進んでいく。ゆっくりペースではあるが、確実に槍が近づいてくるのが実感できる。ヒュッテ大槍に着いたのは、予定より2時間ほど遅れた午後2時半過ぎ。ここで遅い昼食。元気を回復して、最後の一登り。進んでいくと下方から僕を呼ぶ声がある。

槍ヶ岳山荘に着いたのは3時半だった。北穂の方にはガスが上がってきたが、こちらは晴れ上がっている。早速槍の穂先へと進む。時間帯がずれたせいか、この天気だが、穂先をほぼ占有することができたのは、ラッキーだった。全員で登頂を祝して山岳部歌を歌う。山岳部は文字通り山岳部の歌ではあるが、大町岳陽高校（前身の大町高校時代から）にとっては、そのみならず全校生徒が入学後の応援練習で徹底的に覚え込まされる第1応援歌でもある。したがって、山岳部員以外の生徒も振りをつけて歌うことができるのだ。「♪私あ名高い信濃の国の日本アルプスのさあ、下に住む。♪信濃大町あ山では持たぬ、岳陽健児のさあ意気で持つ。♪昨日立山、今日は白馬、明日は蓮華のさあ、峰に立つ。♪岳陽健児は忘れはすまい、蓮華の峰のさあ、駒草を。」四囲を見晴らしながら、全員で歌った。クラブやクラスごとに思い思いに写真を撮っている生徒たちの笑顔がはじけていた。そして、最後にO先生がメインイベント。下見の時はさすがに強風でできなかったのだが、穂先での逆立ち。祠の前で見事に成功。居合わせた人から喝采。全校登山で槍に登る生徒には一人ひとり思いがある。過呼吸になっても頑張り続けた生徒は、6年前に槍を目指して登れなかった兄の分まで登るといふ強い思いで最後まで頑張りとおした。女子バレー部の3人は去年の先輩たちが登った姿を見て私たちが最後の思い出を作りたいと、登り切った。などなど。全校登山で槍に登る生徒を登らせるのはこれで4度目。今年も無事に登頂、下山できた。生徒たちのがんばりに感謝だ。

